

江東区区民意向調査（速報値）の結果概要について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

令和元年度に策定した「こども・子育て支援事業計画」から5年が経過し、新たに今後5年間の子育て支援施策及び教育・保育事業の利用量を見込むにあたり、子育て中の保護者や中高生世代の意見・意向を伺うために実施した。

(2) 調査対象者

- 江東区内在住の就学前児童保護者【3,000件】
- 江東区内在住の小学生保護者【3,000件】
- 江東区内在住の小学校高学年児童【1,500件】
- 江東区内在住の中高生世代【2,000件】

(3) 抽出方法

住民基本台帳により無作為抽出した。

(4) 調査方法と実施期間

郵送配付・郵送回収により実施した。なお、小学生から高校生世代までを対象とした調査ではWeb回答も可能とした。

実施期間は令和5年10月9日から10月23日までとした。

(5) 回収数・回収率

調査種類	配付数	回収数	回収率
就学前児童保護者	3,000件	1,624件	54.1%
小学生保護者	3,000件	調整中	
小学校高学年児童	1,500件		
中高生世代	2,000件	799件	40.0%

2 速報値からみる傾向

(1) 親と子の交流について

アンケートの傾向

- 父母との会話状況について、「非常によく話すほうである」の項目は小学生児童・中高生世代いずれも父親に比べて母親で高い傾向にある。〔児童・中高〕
- 同様に、父母が自分の気持ちを理解しているかについて、「とてもよく分かっている」の項目は小学生児童・中高生世代いずれも父親に比べて母親で高い傾向にあるほか、中高生世代になると「とてもよく分かっている」の割合は大幅に低下している。〔児童・中高〕

■お父さん・お母さんとの会話状況〔左：小学生児童、右：中高生世代〕

n=624			n=799				
No.	カテゴリ	お父さん	お母さん	No.	カテゴリ	お父さん	お母さん
1	非常によく話すほうである	40.7	68.6	1	非常によく話すほうである	26.2	55.6
2	話すほうである	41.0	24.7	2	話すほうである	43.4	36.2
3	あまり話さないほうだ	12.0	4.0	3	あまり話さないほうだ	17.1	4.1
4	話さないほうだ	1.8	0.2	4	話さないほうだ	5.1	0.5
	無回答	4.5	2.6		無回答	8.1	3.6

■お父さん・お母さんの自分の気持ちの理解度〔左：小学生児童、右：中高生世代〕

n=624			n=799				
No.	カテゴリ	お父さん	お母さん	No.	カテゴリ	お父さん	お母さん
1	とてもよく分かっている	35.3	53.0	1	とてもよく分かっている	15.1	32.8
2	よく分かっている	35.6	33.3	2	よく分かっている	42.2	46.3
3	あまり分かっていない	19.6	9.0	3	あまり分かっていない	26.9	16.0
4	まったく分かっていない	4.5	1.9	4	まったく分かっていない	7.1	1.4
	無回答	5.1	2.7		無回答	8.6	3.5

- 平日に子どもと何かをする時間について、就学前保護者では父親が「1時間くらい」、母親が「6時間以上」で最も高い。これが小学生保護者になると、父親は「ほとんどない」、母親では「1時間くらい」が最も高くなる。〔就前保・小学保〕
- 休日になると、父母いずれも「6時間以上」が最も高くなる。〔就前保・小学保〕

■平日に子どもと何かをする時間〔左：就学前保護者、右：小学生保護者〕

n=1,624			n=1,549				
No.	カテゴリ	父親	母親	No.	カテゴリ	父親	母親
1	6時間以上	1.2	23.8	1	6時間以上	1.0	6.4
2	5時間くらい	1.0	7.7	2	5時間くらい	0.6	4.6
3	4時間くらい	4.6	12.0	3	4時間くらい	1.7	6.8
4	3時間くらい	11.2	17.9	4	3時間くらい	4.8	13.5
5	2時間くらい	17.9	16.3	5	2時間くらい	10.1	20.6
6	1時間くらい	24.2	12.3	6	1時間くらい	19.6	25.4
7	30分くらい	15.0	5.5	7	30分くらい	19.0	13.1
8	15分くらい	7.6	1.8	8	15分くらい	9.2	3.0
9	ほとんどない	14.3	1.4	9	ほとんどない	27.5	4.3
	無回答	2.8	1.3		無回答	6.5	2.2

■休日に子どもと何かをする時間〔左：就学前保護者、右：小学生保護者〕

n=1,624			n=1,549				
No.	カテゴリ	父親	母親	No.	カテゴリ	父親	母親
1	6時間以上	56.2	70.8	1	6時間以上	27.6	37.8
2	5時間くらい	8.9	8.0	2	5時間くらい	7.9	8.5
3	4時間くらい	7.8	7.5	3	4時間くらい	10.0	12.1
4	3時間くらい	11.0	7.0	4	3時間くらい	14.7	15.5
5	2時間くらい	6.5	3.3	5	2時間くらい	13.0	13.2
6	1時間くらい	3.1	1.7	6	1時間くらい	9.7	7.4
7	30分くらい	0.9	0.3	7	30分くらい	3.4	1.7
8	15分くらい	0.7	0.0	8	15分くらい	1.3	0.4
9	ほとんどない	2.0	0.1	9	ほとんどない	5.7	1.2
	無回答	3.0	1.3		無回答	6.6	2.1

○仕事と子育ての両立で大変なこととして、「子どもと接する時間が少ない」が就学前保護者・小学生保護者いずれも4割強から5割で2番目に高い。〔就前保・小学保〕

■仕事と子育てを両立させる上で大変なこと〔左：就学前保護者、右：小学生保護者〕

n=1,624		n=1,549	
No.	カテゴリ	No.	カテゴリ
1	急な残業が入ってしまう	1	急な残業が入ってしまう
	40.8		32.2
2	自分が病気・けがをした時や子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない	2	自分が病気・けがをした時や子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない
	62.9		60.7
3	家族の理解が得られない	3	家族の理解が得られない
	6.9		5.7
4	職場の理解が得られない	4	職場の理解が得られない
	17.4		11.4
5	子どもの他に面倒をみななければならない人がいる	5	子どもの他に面倒をみななければならない人がいる
	3.3		3.7
6	子どもの面倒をみしてくれる預かり場所などが見つからない	6	子どもの面倒をみってくれる預かり場所などが見つからない
	22.5		18.1
7	子どもと接する時間が少ない	7	子どもと接する時間が少ない
	50.4		42.8
8	その他	8	その他
	12.3		9.7
	無回答		無回答
	4.1		8.3

次期計画に向けた課題

○父母と子どもの会話の状況を見ると、母親に比べて父親の会話の頻度が少なく、また、小学生から中学生にかけて会話の頻度が少なくなる傾向がみられる。さらに、この傾向と比例するように「親は自分の気持ちを理解していない」とする結果が出ている。一方で、保護者は子どもと接する時間の少なさを課題としてあげている。良好な親子関係の構築のためにも、時間捻出に向けた啓発や支援が求められる。

(2) 教育・保育事業の利用状況・意向について

アンケートの傾向

- 現在の教育・保育事業の利用状況について、「利用している」が8割、「利用していない」が2割となっている。〔就前保〕
- 利用していない理由としては「子どもがまだ小さいから」の割合が最も高く、利用を考える年齢については「1歳」が最も高く、次いで「3歳」、「2歳」の順となる。〔就前保〕

■教育・保育事業の現在の利用状況（左）と利用しない理由（右）〔就学前保護者〕

No.	カテゴリ	n=1,624
1	利用している	79.1
2	利用していない	20.1
	無回答	0.8

No.	カテゴリ	n=168
1	0歳	1.8
2	1歳	45.8
3	2歳	14.3
4	3歳	24.4
5	4歳	4.8
6	5歳	0.0
7	6歳	0.0
8	7歳以上	0.0
	無回答	8.9

No.	カテゴリ	n=326
1	(保護者がみているなどの理由で)必要がないから	47.5
2	お子さんの祖父母や親せきがみているから	5.8
3	近所の人や父母の友人・知人がみているから	0.3
4	利用したいが、教育・保育事業(特定の施設に関わらず)に空きがないから	12.3
5	希望していた特定の施設に入ることができなかったから	6.1
6	利用したいが、経済的な理由で事業を利用できないから	4.6
7	利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わないから	1.5
8	利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がないから	1.8
9	不定期での預かりサービス(一時保育など)を利用しているから	6.1
10	お子さんがまだ小さいから(口歳くらいになったら利用しようと考えている)	51.5
11	その他	7.1
	無回答	1.2

○現在利用している教育・保育事業について、8割以上が『満足』と回答している。
 不満を感じる要素としては「園庭がない・せまい」が最も高く、次いで「家から遠い」となる。〔就前保〕

■現在利用している教育・保育事業（左）とその満足度・不満理由（右）〔就学前保護者〕

No.	カテゴリ	n=1,285
1	認定こども園(1号認定での利用)	4.4
2	認定こども園(2号・3号認定での利用)	4.2
3	区立幼稚園(定期的預かり保育利用無)	3.0
4	区立幼稚園(定期的預かり保育利用有)	0.9
5	私立幼稚園(定期的預かり保育利用無)	5.8
6	私立幼稚園(定期的預かり保育利用有)	4.3
7	認可保育所	64.0
8	小規模保育	1.2
9	家庭的保育	0.1
10	事業所内保育施設	0.1
11	居宅訪問型保育	0.1
12	都の認証保育所	3.1
13	企業主導型保育所	1.6
14	家庭福祉員(保育ママ)	0.0
15	その他の認可外保育施設	2.2
16	ファミリー・サポート・センター	0.0
17	その他	0.6
	無回答	4.4

No.	カテゴリ	n=1,285
1	大変満足している	44.4
2	満足している	41.4
3	やや不満である	9.4
4	不満である	1.2
5	どちらともいえない	1.0
	無回答	2.6

No.	カテゴリ	n=136
1	家から遠い	25.7
2	職場から遠い	5.9
3	利用する駅から遠い	7.4
4	兄弟姉妹で別の施設に通っている	8.8
5	保育内容・方針が良くない	17.6
6	施設から情報提供が不十分	14.0
7	スタッフの数が不十分	19.9
8	施設の設備が不十分	5.9
9	給食がない	10.3
10	送迎がない	7.4
11	園庭がない・せまい	36.0
12	防犯対策が不十分	8.1
13	保育料が高い	18.4
14	開園時間が短い	12.5
15	延長による預かりサービスがない	6.6
16	保護者が運営や行事に参加する機会が少ない	7.4
17	保護者が運営や行事に参加する機会が多い	8.8
18	小学校就学前まで預けられる施設ではない	5.9
19	その他	28.7
	無回答	0.7

○第一希望で利用したい教育・保育施設について、「認可保育所」が1歳時で4割弱、2歳時で4割以上となる。また、『幼稚園』は3歳時以上で2割台となる。〔就前保〕

■年齢別にみる第一希望で利用したい教育・保育施設〔就学前保護者〕

No.	カテゴリ	n=1,624					
		0歳時	1歳時	2歳時	3歳時	4歳時	5歳時
1	認定こども園(1号認定での利用)	0.9	1.9	2.8	4.9	5.3	5.7
2	認定こども園(2号・3号認定での利用)	2.0	5.0	5.7	6.7	7.1	7.6
3	区立幼稚園(定期的預かり保育利用無)	0.1	0.1	0.1	1.4	1.8	1.7
4	区立幼稚園(定期的預かり保育利用有)	0.0	0.0	0.2	8.2	9.7	10.5
5	私立幼稚園(定期的預かり保育利用無)	0.0	0.1	0.5	2.6	3.1	3.4
6	私立幼稚園(定期的預かり保育利用有)	0.1	0.3	0.9	8.4	10.3	11.5
7	認可保育所	16.0	38.2	44.2	43.3	46.3	50.9
8	小規模保育	1.8	4.7	4.5	0.6	0.6	0.6
9	家庭的保育	0.9	0.7	0.7	0.1	0.1	0.1
10	事業所内保育施設	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.1
11	居宅訪問型保育	0.5	0.6	0.4	0.1	0.1	0.1
12	都の認証保育所	0.7	1.2	1.4	0.9	0.7	0.8
13	企業主導型保育所	0.1	0.4	0.3	0.4	0.3	0.3
14	家庭福祉員(保育ママ)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
15	その他の認可外保育施設	0.0	0.2	1.0	1.5	1.4	1.5
16	ファミリー・サポート・センター	0.7	0.6	0.4	0.1	0.0	0.0
17	未就園児の定期的な預かり事業	4.9	4.6	3.9	0.8	0.2	0.3
18	その他	0.6	0.6	0.4	0.3	0.4	0.3
	無回答	70.8	40.8	32.6	19.6	12.6	4.7

次期計画に向けた課題

○教育・保育事業の利用割合は約8割で5年前調査（70.5%）よりも1割増加し、利用していない理由として「空きがないから」が5年前調査（23.2%）から12.3%へ減少したことは成果である。一方で、利用率が上がり、また、1歳での入園ニーズの高さがうかがえることから、希望する教育・保育事業を利用できるよう引き続き支援が求められる。

(3) 放課後の過ごし方・居場所について

アンケートの傾向

- 放課後に過ごすことが多い場所について、小学生児童・中高生世代いずれも「自分の家」や「学習塾・習い事」の割合が高いほか、小学生児童では「公園」、中高生世代では「学校の部活動」もそれぞれ高い。〔児童・中高〕
- 小学生保護者に聞いた放課後に子どもが過ごす場所も同様の傾向であるが、「江東きッズクラブ」のA・Bいずれも約2割の回答となっている。〔小学保〕

■放課後に過ごすことが多い場所〔左：小学生児童、右：中高生世代〕

No.	カテゴリ	n=624	No.	カテゴリ	n=799
1	自分の家	81.9	1	自分の家	81.7
2	友だちの家	11.7	2	友だちの家	2.4
3	近所の公園	29.2	3	近所の公園	5.8
4	児童館	9.0	4	学校の部活動	45.8
5	きッズクラブ	6.6	5	学習塾・習い事	32.0
6	学習塾・習い事	61.4	6	アルバイト	5.0
7	ゲームセンター等の娯楽施設	1.1	7	ゲームセンター等の娯楽施設	3.1
8	カフェ等の飲食店	0.5	8	カフェ等の飲食店	6.5
9	スポーツ施設	4.8	9	スポーツ施設	2.5
10	区の施設	2.2	10	児童館	1.5
11	その他	4.8	11	青少年交流プラザ	0.5
	無回答	3.8	12	区の施設	1.6
			13	その他	5.1
				無回答	4.0

■休日に過ごすことが多い場所〔左：小学生児童、右：中高生世代〕

No.	カテゴリ	n=624	No.	カテゴリ	n=799
1	自分の家	86.2	1	自分の家	90.5
2	友だちの家	8.7	2	友だちの家	5.6
3	近所の公園	25.0	3	近所の公園	9.5
4	児童館	4.8	4	学校の部活動	24.0
5	きッズクラブ	0.6	5	学習塾・習い事	20.8
6	学習塾・習い事	41.0	6	アルバイト	5.0
7	ゲームセンター等の娯楽施設	7.7	7	ゲームセンター等の娯楽施設	12.5
8	カフェ等の飲食店	5.9	8	カフェ等の飲食店	10.5
9	スポーツ施設	8.8	9	スポーツ施設	4.5
10	区の施設	3.0	10	児童館	1.4
11	その他	10.7	11	青少年交流プラザ	0.6
	無回答	1.9	12	区の施設	2.6
			13	その他	7.4
				無回答	0.5

■子どもが放課後に過ごす場所〔小学生保護者〕

No.	カテゴリ	n=1,549
1	自宅	64.8
2	祖父母宅や友人・知人宅	7.2
3	習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)	54.1
4	児童館	10.5
5	江東きッズクラブA登録	20.2
6	江東きッズクラブB登録	20.2
7	私立の学童クラブ	0.8
8	民間の学童クラブ	3.6
9	ファミリー・サポート	0.1
10	公園	18.9
11	その他	3.6
	無回答	1.6

○安心できる場所について、小学生児童では「自宅の家族が集まる部屋」の割合が最も高いが、中高生世代では「自宅の自分の部屋」の割合が最も高くなる。また、「安心できる場所がない」は小学生児童・中高生世代いずれも約1%となる。〔児童・中高〕

■安心できる場所〔小学生児童・中高生世代〕

No.	カテゴリ	小学生 n=624	中高世代 n=799
1	自宅の自分の部屋	56.6	81.6
2	自宅の家族が集まる部屋	76.0	58.7
3	親せきの家	20.0	13.1
4	友だちの家	19.7	12.1
5	学校の教室	33.8	27.5
6	学校の保健室	11.1	5.1
7	学校の部室	19.7	12.9
8	学校の図書館	17.6	9.4
9	区の図書館	9.6	7.9
10	児童館	6.9	3.1
11	学習塾・習い事の教室	28.2	8.5
12	アルバイト先	-	1.1
13	ゲームセンター等の娯楽施設	8.2	6.5
14	カフェ等の飲食店	7.2	9.9
15	公園	23.2	10.8
16	インターネット上の空間	6.4	10.8
17	その他	5.1	3.8
18	安心できる場所がない	1.1	1.0
	無回答	1.8	0.3

次期計画に向けた課題

- 放課後に過ごす場所として、「江東きっずクラブA・B」の利用も一定数見られる。就学前の保育ニーズの高まりと連動し、小学生の放課後の預かりのニーズも高まることが予想されるため、ニーズを見極めた確保策が求められる。
- 安心できる場所は、小学生が「家族の集まる部屋」、中学生が「自分の部屋」と違いはあるものの、“自分の家”が安心できる結果となっている。一方で、小・中学生いずれも「安心できる場所がない」に約1%の回答があり、自分に適した居場所を見つけられるよう、多様な居場所を地域に用意することが求められる。

(4) 悩み・不安に感じることについて

アンケートの傾向

○悩み・不安ごとについて、小学生児童では「特に悩みや不安はない」が4割で最も高く、次いで「勉強や進学のこと」が続く。一方で、中高生世代では「勉強や進学のこと」が6割強で最も高く、次いで「将来のこと」が3割強で続く。〔児童・中高〕

○悩みや不安を感じた時の相談について、小学生児童・中高生世代のいずれも「特に相談はしない」が2割強となっている。〔児童・中高〕

■現在悩んでいること、不安に感じること〔小学生児童・中高生世代〕

No.	カテゴリ	小学生 n=624	中高世代 n=799
1	友だち関係のこと	19.1	19.0
2	家族関係のこと	6.3	7.8
3	勉強や進学のこと	36.7	61.2
4	学校生活のこと	10.9	15.8
5	仕事や職場のこと	-	1.4
6	自分の健康のこと	11.4	10.4
7	自分の性格のこと	15.5	18.9
8	自分の見た目のこと	11.7	19.8
9	恋愛のこと	5.6	10.5
10	性のこと	1.1	2.9
11	将来のこと	19.1	31.5
12	その他	2.4	1.6
13	特に悩みや不安はない	40.9	22.3
	無回答	3.7	0.9

■悩みや不安を感じた時に相談するところ〔小学生児童・中高生世代〕

No.	カテゴリ	小学生 n=624	中高世代 n=799
1	同級生の友だち	-	54.9
2	年上の友だち・先輩	-	8.5
3	年下の友だち・後輩	-	2.1
4	職場の同僚等	-	0.4
5	親	65.5	55.3
6	兄弟姉妹	13.9	13.4
7	祖父母	6.9	3.3
8	学校の先生	18.1	12.6
9	保健室の先生	2.2	1.4
10	スクールカウンセラー	7.1	2.1
11	塾や習い事の先生	4.0	5.9
12	インターネットのチャット・掲示板	0.5	2.5
13	LINEやX(旧Twitter)などのSNS	2.1	6.1
14	その他	13.0	1.5
15	特に相談はしない	24.2	22.7
	無回答	1.9	0.3

○子育てで感じる不安感や負担感について、「こどものしつけや教育に自信が持てない」が就学前保護者・小学生保護者のいずれも5割以上の回答となり、就学前保護者では最も高い。一方で、小学生保護者で最も高いのは「こどもの進学や受験」で6割半ばとなる。〔就前保・小学保〕

○また、就学前保護者では「自分の自由な時間が持てない」が4割半ばで2番目に高い。〔就前保・小学保〕

■子育てで感じる不安感・負担感（不安・負担を感じている保護者限定）〔就学前保護者・小学生保護者〕

No.	カテゴリ	就学前 n=823	小学生 n=783
1	こどものしつけや教育に自信が持てない	57.2	51.0
2	こどものことが理解できない	10.8	11.7
3	育児について、相談する相手がいない	6.6	6.5
4	気軽に話せるような友人がいない	8.0	6.1
5	一人で育児をしている気がする	18.3	20.9
6	配偶者(パートナー)が子育てにあまり協力してくれない	11.8	14.8
7	配偶者(パートナー)と子育てのことで意見が合わない	13.5	14.0
8	こどもが基本的な生活習慣を身につけていない(あいさつ、整理・整頓など)	14.8	27.2
9	こどもの進学や受験	42.0	65.0
10	こどもが何事に対しても消極的である	5.7	12.0
11	こどもの友達との付き合い方	18.7	27.6
12	こどもの身体の発育や病気	23.9	23.4
13	子育てにかかる費用	35.1	35.4
14	こどもの食事や栄養	32.7	19.7
15	自分の自由な時間が持てない	44.6	27.7
16	こどもに愛情を持てない	0.6	0.8
17	その他	13.6	7.3
	無回答	0.5	0.9

次期計画に向けた課題

○小・中学生は勉強・進学や将来の異なる様々な悩みがあることがうかがえるが、そうした悩みについて「特に相談はしない」が2割強と、約4人に1人が回答している。自分で考えたいという意思を尊重しつつも、相談することの重要性や相談先をより周知しておくことが必要となる。

○就学前保護者と小学生保護者の半数はしつけや教育に不安・負担を感じている。また、中学生になると進学や受験の問題のほか、こどもの生活習慣に関する不安が顕在化することがうかがえる。情報提供、相談対応など、その時々に応じたサポートが課題となる。

(5) 情報の受け取り方について

アンケートの傾向

- こども関連の情報の受け取りについて、就学前保護者・小学生保護者のいずれも「ことう区報」が最も高く、次いで『通園・通学先のお便り』が高い。〔就前保・小学保〕
- 今後希望する情報の受け取り方について、就学前保護者・小学生保護者のいずれも現在の結果と傾向は同様であるが、「区SNS」に対する回答が高くなっている。〔就前保・小学保〕

■こども関連の情報の受け取り方法と今後の希望〔左：就学前保護者、右：小学生保護者〕

n=1,624			n=1,549				
No.	カテゴリ	現在	今後	No.	カテゴリ	現在	今後
1	ことう区報	76.7	54.4	1	ことう区報	81.1	60.7
2	江東区ホームページ	33.9	29.4	2	江東区ホームページ	19.9	21.4
3	子育て情報ポータルサイト	15.5	20.5	3	江東くらしガイド	2.4	4.4
4	子育てハンドブック	14.2	10.3	4	区SNS	18.5	39.1
5	江東くらしガイド	3.4	3.9	5	学校からのお便り	72.9	60.7
6	区SNS	24.5	42.9	6	こどもまつりや区民まつりなどの区の事業	9.4	9.2
7	保育園・幼稚園からのお便り	57.3	52.3	7	窓口などの区の職員	1.4	2.2
8	新生児訪問や両親学級などの区の事業	12.4	9.4	8	家族や友人からの情報	40.7	24.3
9	窓口などの区の職員	4.1	5.3	9	その他	1.3	2.1
10	家族や友人からの情報	44.8	26.2		無回答	1.9	10.1
11	その他	3.9	3.5				
	無回答	2.2	11.6				

次期計画に向けた課題

OSNSによる情報発信のニーズの高さを踏まえ、デジタルを活用した情報発信の在り方を検討する必要がある。

(6) ひきこもり・不登校の状況について

アンケートの傾向

- 外出の状況について、「ふだんは家にいる」や「家から出ない」など、ひきこもりの傾向がうかがえる割合は約4%となっている。また、ひきこもりの状態になった年齢については「13歳」が最も高く、前後の「12歳」「14歳」も次いで高い。〔中高〕
- ひきこもりの傾向になったきっかけとしては、「その他」の5割半ばに次いで「学校に行けなくなった」が3割弱となっている。〔中高〕

■外出の状況（左）と現在の状況になった年齢及びきっかけ（右）〔中高生世代〕

No.	カテゴリ	n=799
1	学校や仕事で平日は毎日外出する	87.5
2	学校や仕事で週に3~4日は外出する	2.5
3	遊び等で頻繁に外出する	2.4
4	人づきあいのためにときどき外出する	1.9
5	自宅で仕事をしていて、用があるときだけ外出する	0.3
6	ふだんは家にいるが、趣味に関する用事の時だけ外出する	2.8
7	ふだんは家にいるが、近所のコンビニなどにはでかける	0.9
8	自室からは出るが、家からはでない	0.6
9	自室からはほとんど出ない	0.0
	無回答	1.3

No.	カテゴリ	n=34
1	6・7歳	2.9
2	8・9歳	0.0
3	10・11歳	11.8
4	12歳	17.6
5	13歳	23.5
6	14歳	20.6
7	15歳	8.8
8	16歳	5.9
	無回答	8.8

No.	カテゴリ	n=34
1	学校に行けなくなった	29.4
2	友人との関係がうまくいかなかった	14.7
3	親との関係がうまくいかなかった	2.9
4	兄弟姉妹との関係がうまくいかなかった	2.9
5	職場になじめなかった	0.0
6	受験に失敗した	0.0
7	病気のため	11.8
8	その他	55.9
	無回答	2.9

次期計画に向けた課題

- 5年前の調査と同様に、中高生世代のうち、ひきこもりの傾向にある割合は約4%で、その状況になった年齢は13歳前後と概ね中学の進学時にあたる。思春期におけるメンタル面でのサポート体制を充実させることが引き続きの課題となる。

(7) 体罰等について

アンケートの傾向

○親からの体罰の状況について、「受けたことはない」が小学生児童・中高生世代いずれも約7割となっているが、「ごくまれに受けたことがある」が約2割、「ときどき受けていた」が約5%、「日常的に受けていた」が約1%で、4～5人に1人の割合で何かしらの体罰を受けた経験があると回答している。〔児童・中高〕

○言葉によって傷つけられたことについて、「ない」が小学生児童・中高生世代いずれも約5割となっているが、『ある』も約4割と拮抗する結果となっている。〔児童・中高〕

■ 父母から体罰を受けたこと〔小学生児童・中高生世代〕

No.	カテゴリ	小学生 n=624	中高世代 n=799
1	受けたことはない	69.2	75.8
2	ごくまれに受けたことがある	20.2	16.0
3	ときどき受けていた	6.6	4.4
4	日常的に受けていた	1.0	1.4
	無回答	3.0	2.4

■ 父母から言葉によって傷つけられたこと〔小学生児童・中高生世代〕

No.	カテゴリ	小学生 n=624	中高世代 n=799
1	ない	55.4	49.4
2	ごくまれにある	27.2	32.4
3	ときどきある	12.7	13.6
4	日常的にある	2.2	2.1
	無回答	2.4	2.4

○しつけと体罰の保護者の意識について、「しつけのためなら、ある程度の体罰もやむを得ない」が就学前保護者・小学生保護者のいずれも約2割となっている。〔就前保・小学保〕

■ しつけと体罰の関係の考え方〔就学前保護者・小学生保護者〕

No.	カテゴリ	就学前 n1,624	小学生 n=1,549
1	しつけであっても体罰はすべきではない	77.8	74.2
2	しつけのためなら、ある程度の体罰もやむを得ない	19.6	22.9
3	しつけのためには体罰は必要である	0.5	0.7
	無回答	2.1	2.3

■ こどもをたたいた経験〔就学前保護者・小学生保護者〕

No.	カテゴリ	就学前 n1,624	小学生 n=1,549
1	たたいたことは1度もない	43.9	23.2
2	ごくまれにあった	38.5	53.5
3	ときどきあった	14.9	21.0
4	日常的にあった	0.6	0.5
	無回答	2.1	1.9

次期計画に向けた課題

○中高生世代において、体罰を「受けたことがない」とする割合は75.8%で5年前調査(70.3%)よりもやや増加している。また、保護者におけるしつけと体罰の考え方について、「しつけであっても体罰はすべきではない」の割合が5年前調査(就学前64.9%、小学生60.6%)よりも増加、さらには「たたいたことは1度もない」も5年前調査(就学前31.2%、小学生15.5%)よりも増加しており、体罰をしてはいけないという考え方が着実に広まっていることがうかがえる。引き続き、しつけと体罰の違い等について周知・啓発することが必要となる。

(8) 地域と子育てについて

アンケートの傾向

- 子育てをしていて地域で支えられていると感じるかについては、いずれも感じる割合と感じない割合は拮抗する割合となっている。〔就前保・小学保〕
- 子どもが地域で見守られているかについて、就学前保護者において『感じない』とする割合が高くなっている。〔就前保・小学保〕
- 地域のつながりの必要性については、いずれも「ある程度は必要である」が6割を超え、大半が必要を感じていることがうかがえる。〔就前保・小学保〕

■子育てをしていて地域で支えられていると感じること〔就学前保護者・小学生保護者〕

No.	カテゴリ	就学前 n1,624	小学生 n=1,549
1	とても感じる	7.5	7.5
2	たまに感じる	37.8	39.5
3	あまり感じない	38.2	36.1
4	まったく感じない	11.1	11.0
5	どちらともいえない	4.4	4.6
	無回答	1.0	1.3

■子どもが地域に見守られていると感じること〔就学前保護者・小学生保護者〕

No.	カテゴリ	就学前 n1,624	小学生 n=1,549
1	とても感じる	6.4	8.9
2	たまに感じる	33.1	40.9
3	あまり感じない	41.9	36.1
4	まったく感じない	13.6	9.5
5	どちらともいえない	4.1	3.6
	無回答	0.9	1.0

■地域のつながりの必要性〔就学前保護者・小学生保護者〕

No.	カテゴリ	就学前 n1,624	小学生 n=1,549
1	大いに必要である	25.2	23.2
2	ある程度は必要である	62.4	62.2
3	あまり必要ではない	6.5	6.1
4	必要ではない	1.0	1.2
5	どちらともえない	4.0	6.2
	無回答	0.9	1.2

次期計画に向けた課題

○子育てが地域で支えられている実感、子どもが地域で見守られている実感については、『感じる』と『感じない』の割合が拮抗する結果となっている。しかし、子育てがしやすいまちの要素としては、地域のつながりが必要であると大半が回答しており、子どもとその保護者を地域で見守れる体制づくりが課題となる。

(9) こどもの権利について

○こどもの権利の認知状況について、『知っている』は小学生児童・中高生世代で4割弱、就学前保護者・小学生保護者で5割弱となる。「知らない」は小学生児童・中高生世代で4人に1人の割合となる。〔児童・中高・就前保・小学保〕

■こどもの権利の認知状況〔小学生児童・中高生世代〕

No.	カテゴリ	小学生 n=624	中高世代 n=799
1	よく知っている	14.7	13.0
2	ある程度知っている	23.1	26.4
3	聞いたことはある	33.7	34.4
4	知らない	26.3	25.9
	無回答	2.2	0.3

■こどもの権利の認知状況〔就学前保護者・小学生保護者〕

No.	カテゴリ	就学前 n1,624	小学生 n=1,549
1	よく知っている	12.1	9.7
2	ある程度知っている	34.4	38.5
3	聞いたことはある	40.8	40.3
4	知らない	12.3	10.1
	無回答	0.5	1.4

○こどもが大切にされているかについて、『思わない』は小学生児童・中高生世代のいずれも1割強となる。〔児童・中高〕

○守られていないと感じるこどもの権利について、就学前保護者・小学生保護者のいずれも「大人はそのこどもにとって最も良いことを優先すること」、「こどもは自分に関することについて、意見を自由に言えて、大人に尊重されること」の2項目が2割半ばで割合が高い。〔就前保・小学保〕

■こどもが大切にされていると感じること〔小学生児童・中高生世代〕

No.	カテゴリ	小学生 n=624	中高世代 n=799
1	そう思う	58.2	45.1
2	ときどきそう思う	29.3	43.7
3	ほとんどそう思わない	8.7	8.9
4	まったくそう思わない	1.6	1.9
	無回答	2.2	0.5

■守られていないと感じる「こどもの権利」〔就学前保護者・小学生保護者〕

No.	カテゴリ	就学前 n=1,624	小学生 n=1,549
1	どんな理由でも差別されない権利	19.6	20.4
2	命が守られ、必要な支援を受けながら成長できる権利	13.4	13.8
3	大人はそのこどもにとって最も良いことを優先すること	24.1	24.7
4	こどもは自分に関することについて、意見を自由に言えて、大人に尊重されること	25.5	28.7
5	あらゆる暴力から守られる権利	18.1	16.8
6	教育を受ける権利	9.0	9.4
7	休んだり、遊んだり、文化芸術活動に参加する権利	15.9	16.3
	無回答	40.9	38.9

○意見を江東区に反映させるために参加しやすい方法について、小学生児童では「あまり興味がない」が4割強で最も高いが、「通っている学校を通じて意見を伝える」も4割となっている。〔児童〕

○中高生世代では、「通っている学校を通じて意見を伝える」、「こどもの意見を伝えるLINEやX(旧Twitter)などSNSの専用アカウント作成」、「あまり興味がない」の3項目が3割台半ばとなっている。〔中高〕

■意見を江東区に反映させるために参加しやすい方法〔小学生児童・中高生世代〕

No.	カテゴリ	小学生 n=624	中高世代 n=799
1	「こども会議」など皆さんの代表が参加する会議に参加	9.3	8.4
2	「こどもモニター」など定期的に意見を伝えるメンバーの募集	7.7	7.4
3	通っている学校を通じて意見を伝える	40.1	34.8
4	こどもの意見を伝えるLINEやX(旧Twitter)などSNSの専用アカウント作成	14.7	36.0
5	あまり興味がない	41.5	35.5
6	その他	3.0	3.5
	無回答	6.6	2.9

次期計画に向けた課題

- こどもの権利については、小学生児童・中高生世代の4人に1人が「知らない」と回答している。また、こどもが大切にされているかについて、『思わない』は小学生児童・中高生世代のいずれも1割強となる。こどもと接する大人が理解することも必要だが、こども自身が自覚し、行動することも必要であることから、こどもの権利について周知・啓発することが求められる。
- 区への意見表明の手法としては「学校を通じて」や「SNSを通じて」という回答が高いことから、これらのチャネルを活用した表明の機会を設定することが求められる。

(10) 性教育について

- 性教育を学校で受けることについて、小学生児童・中高生世代では「よいと思う」、「まあよいと思う」の回答が7割以上となっている。〔児童・中高〕
- 性教育を受ける望ましい時期については、就学前保護者では「就学前から」が4割強で最も高いが、小学生保護者では「小学校高学年から」が4割強で最も高い。〔就前保・小学保〕

■性教育を学校で受けること〔小学生児童・中高生世代〕

No.	カテゴリ	小学生 n=624	中高世代 n=799
1	よいと思う	43.9	43.8
2	まあよいと思う	29.3	41.6
3	いらなと思う	3.7	4.3
4	わからない	20.8	8.4
	無回答	2.2	2.0

■性教育を受けさせる望ましい時期〔就学前保護者・小学生保護者〕

No.	カテゴリ	就学前 n1,624	小学生 n=1,549
1	就学前から	43.8	20.5
2	小学校低学年(1~3年)から	33.6	32.9
3	小学校高学年(4~6年)から	20.4	41.0
4	中学校以降	1.5	4.4
	無回答	0.6	1.2

次期計画に向けた課題

- 性教育を学校で受けることについて、こども本人も保護者も概ね肯定的な回答結果となっているが、教育を受ける時期については就学前保護者と小学生保護者で異なる傾向となった。こどもの発達段階等を踏まえ、適切な時期について検討する必要がある。